

あくまで両立をと、お願いしています。

実はもう一つ、同窓会の皆様にうれしいご報告があります。おかげさまで今春卒業した就職希望者948名のうち、932名が内定をいただき、就職率は98.3%でした。この数字は愛知県内49大学で、堂々2位を誇ります。

小川 それはすばらしい。同窓会として誇りに思います。大学を選ぶ際、就職先や就職率を気にする学生は多いですから、高い就職率は大学にとって大きな魅力となりますね。

学長 はい。今後は就職内定率や就職先といった出口を用意するだけでなく、学業の過程も重視し、二層の学力アップをめざし、魅力ある大学にしていきたいですね。また大学としては、教育環境の二層の充実と組織の整備。さらなる場合によってはリスクを恐れず、改革も必要だと考えています。

伊藤 変革というと来春、2つの学部と1つの学科が増え、8学部11学科になります。注目のべき学科はありますか。

学長 こどもスポーツ教育学科です。小学校の先生を養成している私大はたくさんありますが、スポーツ健康学部で教員免許が取得できるところはまだ少なく、この新学科はいずれ本学の目玉になると確信しています。

理事長 小学校の先生になるために音楽や家庭科が必要ということ、そのための音楽室や調理室も瀬戸キャンパスに増設しました。**脇田副会長(以下脇田)** ちょうど瀬戸キャンパスで10月11日(土)にホームカミングデーを開催しますよ。

伊藤 いい機会ですから、リニューアルした体

育館やプールと緒に同窓会の皆さんに見ていただけると思いますね。

“変わることを厭わず 他大学にない魅力で 選ばれる”大学へ

50周年を迎えた今、本学ならではの教育の特徴や魅力についてお聞かせください。

学長 まずは文部科学省(以下文科省)が掲げる「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」から。これは自治体と連携し、地域を志向した教育、研究、地域貢献を進める大学を国が支援するというプログラムで、本学はこのコンペに応募した結果、厳しい選定基準をクリアし、採択されました。

国から年間5000万円を5年間、計2億5000万円の補助を受け、自治体・大学・地域の三位一体で街づくりに励み、地域の商業、歴史観光・減災福祉という3つの観点で協力していきましょう、と取り組んでいます。

当然、昔ながらの座学とは違い、PBL(プロジェクト・ベースドラーニング)、要するに学ぶ場所は大学のキャンパスだけでなく、行政・企業・住民といった価値観の異なる人々と関わり、コミュニケーション力を磨きながら学んでいくというスタイル。これはまさに社会ですぐに活躍で

きる人材育成にも直結していると言えます。**脇田** いかにもフィールドに出て社会経験を積んできたか。今、企業が求めている人物像と重なるわけですね。

小川 自分たちも一緒に街づくりに携われるとは、教材としても面白みがありますね。

学長 もう一つが名古屋市立大学(以下名古屋市大)医学部と、名古屋工業大学(以下名工大)、そして本学のリハビリテーション学部が連携し、取り組んでいる未来医療研究人材養成拠点形成事業です。

分かります。アメリカの病院ではスタンダードなチーム医療を日本で、しかも大学の垣根を越えて、医師、薬剤師、看護師、医療ロボットを作るエンジニア、理学療法士の卵たちが連携し実践しようとするものです。すでに名古屋市緑区の鳴子団地の高齢者を対象に行っており、本学からはリハビリテーション学部の学生20名ほどが参加しています。現場実習は1・2年次に行いますが、同世代の仲間が集まり、自分たちで考え、計画し実践していくという点で、非常にユニークな研究教育プログラムになっていると思います。

脇田 未来の医師や看護師、理学療法士が学生時代からタッグを組むわけでしょうか。

伊藤 実践を通して学ぶことは多いでしょう。机上では決して得られない経験です。

学長 そのリハビリテーション学部ですが、おかげさまで

国家試験の合格率も就職率も抜群で、就職先からも高い評価をいただいています。

それでは最後に、理事長と学長からご挨拶を頂ければと思います。

理事長 大学創立以来の累計卒業生数4万2000名超という数字から分かるのは、この50年で、これだけ多くの人材を社会に送り出し、そしてそれぞれが様々な分野で活躍しているということ。この先50年、100年後も魅力的な大学として一層、発展していくために、学長らと『名古屋学院大学中期計画—Look Forward 2014-2023—』を立ち上げ、教職員やOB、父母会も一丸となって改革を進めているところです。

法人としては、教育環境の整備にも努めています。名古屋キャンパスでは50周年記念棟『希(のぞみ)館』の建設、瀬戸キャンパスでは体育館をリニューアルし、国際大会にも対応できる施設になりました。いずれも同窓会の皆様の支援のおかげで実現できました。改めて感謝申し上げます。

学長 少子化が進み、大学間競争が激化する中、選ばれる大学になるためには、大学も変化する社会のニーズに合わせて変わることが不可欠。前へ、前へ進んでいく姿勢が必要だと思っております。来春設置することもスポーツ教育学科しかり、文科省の教育プログラムしかり。他大学がやっていないことにチャレンジしながらも、様々な意見に耳を傾け、常に社会に求められる大学、「ここで学びたい」と選んでもらえる大学を目指して参りたいと思います。

お忙しい中、ありがとうございました。

